

第五十五日目

師 範：アメリカ合衆国では、工業社会をつくっていた北部と、黒人奴隷を使って綿花農場を経営する南部の大地主との利害が、一致しません。



貿易でいうと、南部は綿花をイギリスに買ってほしいので、イギリスの工業製品を買わなければいけないと考えます。北部の工場主は、イギリスの工業製品と競争して勝たなくてはならないので、イギリスからの輸入品に税金をかけて守らなくてはならないと考えました。

こんなふうに、南北で対立が激しくなりました。

アメリカでは南北戦争のことを、市民戦争とも言っています。

この内戦の中で、奴隷解放宣言が出されたり、リンカーンの民主政治の原則についての演説がありました。

アメリカの人々にとって忘れることのできない大きな戦争でした。

1861年 南北戦争がおこる。

この年を覚えましょう。

ペン太：では



「南北の戦を人は無意味という」

「ひと」は18、「む」は6、「い(み)」は1と読みます。

師 範：五・七・六ですから、語調はととのっています。

コン太：こんなのはどうでしょうか。



「一夜で無一文になった南の人」

「いちや」は18、「むいち(もん)」は61ですね。

師 範：なかなかいいですよ。

1861のところはうまく言えましたね。

南北戦争という言葉のうちの、南だけしか登場しないのが少し気になります。

でも印象深い言い回しになっていますよ。